

第 36 回医療薬学公開シンポジウム開催報告

東北大学病院薬剤部

眞野 成康

平成 21 年 11 月 14 日（土）にハーネル仙台（宮城県仙台市）において、日本医療薬学会主催、東北病院薬剤師会、宮城県病院薬剤師会、宮城県薬剤師会共催で「第 36 回医療薬学公開シンポジウム」を開催いたしました。当日は宮城県内のみならず、東北・北海道地区、さらに遠方の方にもご参加いただき、総勢 143 名での討論となりました。

薬剤師教育が 6 年制へと移行してすでに 3 年半が経過し、半年後にはいよいよ長期実務実習が開始されようとしています。こうした中、薬剤師を取り巻く環境は刻々と変化しており、医療の進歩における薬剤師の果たすべき役割は極めて大きいと認識しております。そこで今回は、メインテーマを「薬剤師に求められる質と職能を考える」とし、病院薬剤師、保険薬局薬剤師を問わず、これからの薬剤師のあるべき姿について討論することと致しました。

前半は「Patient Safety に果たす薬剤師の役割」をテーマに取り上げ、4 名の講師によるミニシンポジウムを行いました。まず、がん専門薬剤師の立場から、杏林大学医学部付属病院薬剤部の野村久祥先生にご講演いただきました。がん化学療法におけるチーム医療のなかで薬剤師の担う役割の重要性をお話いただくとともに、病院内での活動のみならず、地域の薬剤師会のがん専門薬剤師養成研究会が独自に行っている教育・研修についてもご紹介いただきました。続いて瀬戸裕一先生に、地域の保険薬局薬剤師の在宅ホスピスケア連絡会における活動内容についてご講演いただきました。患者が在宅で安心して療養できるよう、多職種間連携を緊密にし、患者の退院前合同カンファレンスから在宅での服薬指導に至るまでのきめ細やかな対応に大変感銘を受けました。東北大学大学院薬学研究科の平塚真弘先生から、病棟での薬剤管理指導業務に携わる薬剤師が副作用の原因を考えるとときに、常に多角度から考えることが必要であり、今後薬剤師に益々その能力が求められること、また、その原因を究明していくバックグラウンドの一つである薬理遺伝学の重要性についてご講演いただきました。山形大学医学部附属病院の豊口禎子先生には、TDM に関する新たなエビデンスを調査し、それが施設の症例にあてはまるかどうかを確認していくこと、常に patient safety を念頭に置きながら TDM を実践していくことの重要性をお話いただきました。

特別講演では、東北大学大学院薬学研究科の富岡佳久先生から、薬剤師の教育と使命について先人の言葉を交えながら様々なご提言をいただきました。様々な場面で「なぜか？」と疑問を持つことが重要であり、一つの現象を多方面から客観的に考える能力が今後の薬剤師の業務展開に求められるとお話いただきました。さらに、現在および将来の医療の進歩（進化）に柔軟に対応できる医療人を養成するため、学問（医学・薬学）とサービス（医療）が緊密に連携していくことが大切であるとお話いただきました。

以上、本シンポジウムの概略を報告いたしました。いずれの講演も具体的な症例を交えてお話しいただいたので、求められている薬剤師像、あるべき薬剤師像について、参加者各人が自分の今後の方向性について自覚でき、また自身の能力向上に向けて思いを新たにしたものだと確信しております。

第36回医療薬学公開シンポジウム 終了報告書

1. メインテーマ 薬剤師に求められる質と職能を考える
2. 日時 平成21年11月14日(土)
3. 場所 ハーネル仙台
〒980-0014 仙台市青葉区本町2-12-7
Tel: 022-222-1121 Fax: 022-222-1126
4. 参加費 無料
5. プログラム
 - 13:15-13:20 開会の辞 眞野 成康

 - 13:20-15:20 シンポジウム「Patient Safetyに果たす薬剤師の役割」
座長 東北大学大学院薬学研究科 平澤 典保
東北大学病院 島田 美樹
「Patient Safetyに果たす薬剤師の役割 がん化学療法関連」
杏林大学医学部付属病院薬剤部 野村 久祥
「仙南地区在宅ホスピスケア連絡会における多職種連携の活動事例」
有限会社メディファル 瀬戸 裕一
「薬剤管理指導におけるファーマコゲノミクス情報の利用」
東北大学大学院薬学研究科 平塚 真弘
「チーム医療におけるTDMの役割」
山形大学医学部附属病院 豊口 禎子

 - 15:20-16:30 特別講演 座長 眞野 成康
「薬学教育改革と薬剤師の使命」
東北大学大学院薬学研究科 富岡 佳久

 - 16:30 閉会の辞 宮城県病院薬剤師会 石澤 文章
6. 参加者 143名
7. 日本医療薬学会認定薬剤師資格更新研修単位登録申請者 22名
8. 日本薬剤師研修センター集合研修認定シール(2単位)受領者 136名